

きらきらひかる 中和っこ



小さな木の実には未来がつまっている

小さな手のひらに一つ 古ぼけた木の実 (このみ) にぎりしめ
 小さなあしあとが一つ 草原の中を かけてゆく
 パパと二人でひろった 大切な木の実 にぎりしめ



今年 また秋の丘を 少年は一人 かけてゆく (海野 洋司 作詞 「小さな木の実」)

秋になると思い出し、ふと口をつくメロディー「小さな木の実」。原曲は組曲「カルメン」を作曲したフランスのジョルゼ・ビゼー。1971年に初めてNHK「みんなの歌」で放送され、哀愁を帯びた詞と曲が多くの人々の心をとらえ、50年過ぎた今も親しまれています。作者の海野氏は「たとえひとりぼっちになっても、希望を持って、この素晴らしい世界を強く生きていって欲しい。」という我が子への願いをこの歌に託しました。



一粒の木の実は生命のカプセル。子どもたちは未来がいっぱい詰まったカプセル。小さな手が小さな木の実を握りしめる、穏やかな秋がもうしばらく続きますように。

スタートから12年。「特別支援教育」ってなあに？

「特別支援学級」は、障害のある児童生徒のために小・中学校及び義務教育学校に障害の種別に置かれている少人数の学級です。「特別支援教育」の制度は平成19年4月、改正学校教育基本法の下にスタートしました。それまでの「特殊教育」が、特別な場で特別な教育課程で行うことが基本だったのに対し、「一人一人のニーズに応じた適切な指導及び支援を行うこと」へと発展的に転換されました。知的障害・視覚障害・肢体不自由といった従来の障害に加えて、対象とする障害の範囲も広がりました。例えば友だちと上手に活動ができない子やものごとに集中できにくい子、すぐにかっとなりやすい子など、いわゆる「発達障害」も支援の対象になりました。

この転換の背景には共生社会の実現に向けた「インクルーシブ教育システム構築」という課題に対応することが求められるようになったことがあります。また文部科学省の調査で通常の学級に知的な遅れはないにもかかわらず、学習や生活の面で何らかの困り感を抱え、特別な教育的支援が必要と思われる児童・生徒が約6.5%在籍していることが明らかになったことがあります。困り感を抱え、個に即した支援が必要な児童生徒が多数いることが明らかになったのです。子どもたちが抱えることが多い困り感には例えば次のようなものがあります。

生活の場面で	友だち関係や集団生活で	学習の場面で
<ul style="list-style-type: none"> ・じっとしてられない。 ・面と向かって話しても聞いていないように見える。 ・すぐカッとなってイライラしてしまう。 ・日々の活動を忘れたり、物をなくしたりする。 ・身の回りの整理が、うまくできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる。 ・相手が困るようなことも遠慮なく言う。 ・思い通りにならないと、すぐ手が出てしまう。 ・ルールや約束を気にとめない。 ・周りの子に、すぐちょっかいを出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き間違いがある。 ・言葉につまる。 ・行を抜かしたり繰り返し読んだりする。 ・計算をするのにとても時間がかかる。 ・学習の準備や後片づけにとても時間がかかる。 ・不器用で動作がぎこちない。



個に寄り添い、困り感の低減を図り、一人一人のニーズに応じた教育を進める場が特別支援教育です。この10年間で特別支援学級に在籍する児童生徒数は約2倍に、通級指導を受ける児童生徒数は約2.5倍になり、特別支援教育についての理解は着実に進んできたといえます。

まもなく始まる全国読書週間にちなんで、石橋図書館司書に寄稿していただきました。

図書室にいらっしやい ～読書をめぐる三つの話題～

中和小 学校図書館司書 石橋 美有紀

「読書の秋」、おすすめの新着図書

吹く風が涼しさから少しずつ寒さへと変わり、秋の深まりを感じるようになってきました。秋といえば「読書の秋」。中和小学校の図書室に新しい本が入りました。

かわいい絵本、季節の図鑑、ちょっと怖い物語シリーズ、落語、ことばの本など、いろいろな種類の本が加わり、子ども達は「どの本を読もうかな？」と目を輝かせています。その中でも人気のあるのは『日本史探偵コナン』と『大人にはないしょだよ』というシリーズ本です。



『日本史探偵コナン』はふとしたきっかけで現代から過去へスリップした子ども達が現代に帰るために冒険をする歴史まんがです。歴史に興味を持てるよう楽しい内容になっており、歴史の扉を開くよい本です。

『大人にはないしょだよ』は題名からして、いったいどんな内容なのか気になるのではないのでしょうか？この本は大人をあつといわせたり、仲間の中で人気者になり注目を集めたりできるようなゲームやクイズが満載です。思わず「おもしろい！」と笑みがこぼれます。

「読書週間」が始まります。

10月27日から11月9日は全国読書週間です。読書週間は戦後間もない1947年「読書の力によって平和な文化国家をつくろう」という平和を願う気持ちからつくられました。「読書週間」は日本の国民行事として定着し、日本は「本を読む国民の国」となりました。

中和小でも、子ども達がさらに本が好きになるように「新しい本の紹介」をしたりエプロンシアターやパネル・シアターを行ったりする予定です。楽しみにしててください！



親子で読書を！

9月より「家族と一緒に読書を楽しむ」ことをめあてに親子読書がスタートしました。

第1回を9月20日に、第2回を10月19日に行いましたが、いかがでしたか？親子で同じ本を一緒に読んだり、読み聞かせをしたり、それぞれが好きな本を読んで紹介し合ったり、感想を話し合ったり、本をとおして親子の会話がはずみ、コミュニケーションが深まります。新しい発見があるかも知れません。

家の本棚を見直し懐かしい本と再会する、図書館や書店に足を運んだり、地域の読み聞かせに参加したりして新しい本と出会う、どちらも楽しいことです。

秋の夜長を親子いっしょに本の世界を楽しんでみてください。



読み聞かせをする石橋司書

ちゅうわしょうダイアリー

中和小歳時記 ～ 干潟中学区PTAバレー 準優勝！ 学校園のいも掘り ～



10月19日(土)干潟中学校区PTAバレーボール大会で1回戦古城小に勝利し、準優勝。おめでとうございます。



10月23日(火)1・2年生が芋掘りを体験しました。おいしい先生島田さんに見守られて土深く育った大きなおいしい芋を掘り出すと歓声があがりました。

中和小ホームページ「ニュース&トピックス」の記事が150本を超えました。本年度の学校のあゆみをぜひご覧ください。